

□議員名：杉本 保喜

1 防災体制について

論点	30年度山陽小野田市防災訓練が実施されたが、その成果と改善点を問う。
回答	今回は風水害を想定した図上シミュレーション訓練を実施した。特に初動対応と当該案件について優先度を念頭に現実的に実施したことで、本部の運営状況や対応の流れが理解、確認できた。改善点として本部での流れを重視した訓練内容から、シナリオに流された感じがあったので、個々の事案を更に掘り下げて部分的な訓練を関係機関と実施したい。また、提言された記者発表対応訓練も検討したい。

論点	災害時支援協定の具体的な連携と演練実績、維持向上策を問う。
回答	現在41の団体と協定、覚書を締結している。7月の豪雨災害時、株式会社ゼンリンから供給された地図の活用、高千帆地区防災訓練時の山口県建設組合の参加による女性用更衣室の設置、江汐公園での防災イベントでの有限会社アクアによる仮設トイレの展示等が挙げられる。また、協定団体との協定内容等の現状確認を年1回は実施し、支援能力や形態を把握して実働に備えたい。市ホームページでの協定情報も分野別に関係が分かりやすいものにしていく。

論点	庁内の防災組織は、専門担当者が少数であり、かつ、防災危機管理監不在である。対策を問う。
回答	専門の担当者は少数であるが、他の総務課職員との協力体制で非常事態に備えている。防災危機管理監は来年4月に配置することで調整しているが、その間課内の協力体制を更に強化し、関係機関とも密なる連携を取りながら、災害に対応していく。

2 観光・交流について

論点	シティセールスの推進策において、シティプロモーションの構築をどのように考えているのか。
回答	本市のシティセールスは市内外に向けて本市の魅力を発信することで本市のファンをつくるのが目的であり、単に市外への売り込みだけでない

	<p>く市民へも市の魅力を再認識してもらい市の内発的な力を高めていくシティプロモーションの要素を重視した取組と考えている。まちづくりの戦力としてスマイルプランナー登録制度の準備をしており、まちづくりのさまざまな分野で取組を展開していただくため、講義、講演もやりたい。</p>
--	---

<p>論点</p>	<p>シビック・プライドを持った市民が「まちの活性化」を図るための活動拠点の一つとして「市民活動センター」が必要であると思うが、本市のセンターはその期待に応えられる体制か。</p>
<p>回答</p>	<p>市民活動団体としての登録をしてもらい、その活動状況を把握して市のホームページを通じた情報発信を中心に行っている。市民生活課内に設置していることから気軽に利用できる会議室や印刷機等のハード面が十分でないが、団体にとっての情報の充実や、各団体が実施するイベント情報の発信、活動・運営に役立つ講座の開催などのソフト面の強化を図っていく。</p>

<p>論点</p>	<p>「おもてなしサポーター」制度の実績の分析と現在進行中の計画の達成度を問う。</p>
<p>回答</p>	<p>初年度の登録者は10業者11名。今年度は研修を半日に短縮して参加しやすくした。新たな登録者は7事業者10名であり、今後登録することのメリットを具体的に明示する等して更に多くの登録者の増加を図っていく。また、表示の「のぼり」は大きな物にして3事業者に配布して観光客の利便性向上を図った。</p>

3 指定管理者制度について

<p>論点</p>	<p>公園等市外の人にも利用される場所における指定管理者の活動をどのように分析し、改善策をどのように利用者に反映しているのか。</p>
<p>回答</p>	<p>指定管理評価表の様式を見直し、新たに利用者の苦情、要望を問う項目を追加して施設管理に反映するよう変更した。利用者アンケートの中ですぐに改善可能なものは、指定管理者に改善を求め、多額の費用を伴うものは市と指定管理者と改善を図っている。指摘のあった市民を加えた第三者的機関の会議の設置には考えが至っていないが、この制度が導入</p>

	されて十数年経過しているのでモニタリングを含めこの制度を再検討していきたい。
--	--

論点	「行政」「指定管理者」「市民（利用者）」の満足度をどのように捉えているのか。
回答	三者の満足度については、行政は企画政策課と所管課のヒアリングを通じて把握し、指定管理者については施設所管課と指定管理者のモニタリングというところもある。市民（利用者）についてはアンケートや聞き取りを通じて確認している。この3者のトリプルウインの関係はこの制度で成り立たなければならないものである。これの検証をしながらやっていきたいと思っている。